

## 沖縄の長寿企業の意識調査（１）



### おきなわ F B 短信（23） （1分間で読めます。）

平成 22 年 1 月 5 日（火）

新年おめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

最近、沖縄の長寿企業の代表者の意識調査を行った。テーマは「どうすれば沖縄を強くできるか」である。商工リサーチのデータベース法人企業 10,384 社（国税統計約 13,500 社、平成 18 年事業所統計調査の会社数 10,869 社）から創業年の古い順に調査対象として、金融、マスコミ、上場、赤字等を除き 95 社を選定した。

調査結果を要約すると、企業存続の第 1 の要諦は「市場と顧客」、顧客に対する商品やサービスの供給体制と創意工夫（チャレンジ精神）であった。

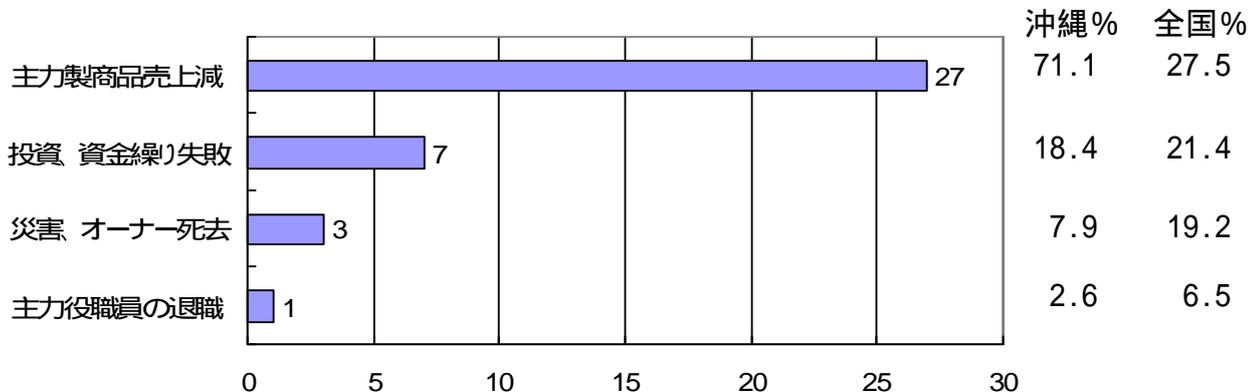
第 2 の要諦は「人財と組織」、事業を継続しその発展を支えるのは人であり、人の活動を継続する基盤は組織である。

第 3 の要諦は「財政基盤の充実」、売上 > コストの採算を忘れず、浮利を追わない堅実な経営による財務の充実である。

これらの企業活動に資本を提供し、長期的な理念と展望に立って企業を発展させる責任「ガバナンス」や三方よし、特に世間よしの「社会的責任」が必要である。

沖縄の代表的な長寿企業によれば、過去における最大の危機は「主力製商品の売上減」（71.1%）であったが、これらの危機を克服して現在に至っている。

### 創業以来の危機となった出来事は？（企業の存続の条件は市場と顧客）



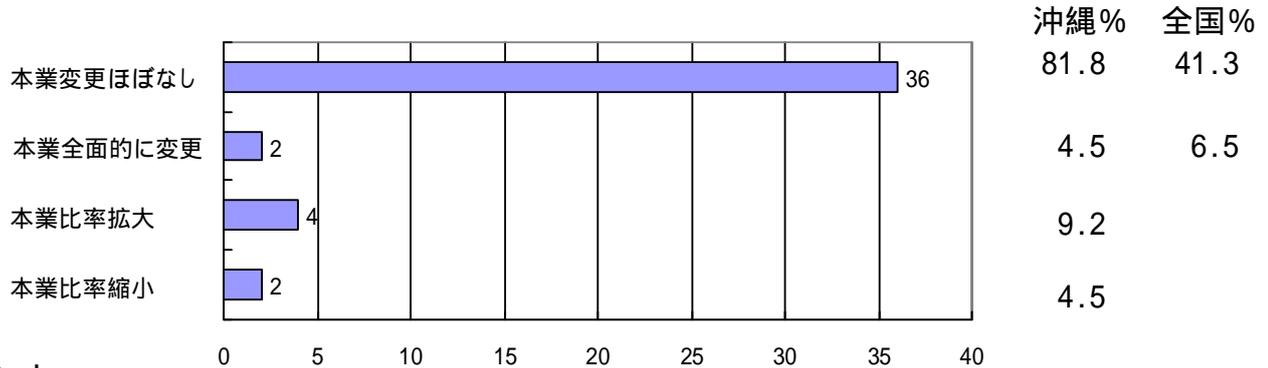
（全国は帝国データバンク「伸びる老舗、変わる老舗」から部分引用）

#### コメント

結局、長寿企業にとって、危機とは主力製商品の売上減が最大のもので、投資、資金繰りの失敗、オーナーの死去、主力役職員の退職等を大きく超える企業継続の本当の危機であった。

そして、これらの企業の「本業の継続」の比率は95.5%と不思議なほど高い。これは本業のDNAの強さであり、100年を超える寿命であると思える。

### 主力事業の継続と変化は？（本業のDNAは100年以上継続）



#### コメント

結果は、「本業の継続」であった。継続できる本業であったから長寿であったことがわかる。本業が中心にあり、本業以外への進出は比較的少なく、本業力こそ企業を長期間継続する最も重要な要素である。

長寿企業にとって本業とは事業が社会に存続し続ける理由、発展、拡大の基礎になる企業のDNAである。本業のDNAの強さが企業の長寿をもたらしていると考えられる。

沖縄の長寿企業の意識調査（総論）  
ファミリービジネス研究所 沖縄本部 から引用